



▲中屋本店の店員

## 山中正吉家の出店

山中正吉家は、文政年間に駿河国天間村（静岡県富士市）で酒造業を始めました。その店はまもなく閉店しましたが、その後、天保初年に同じ駿河国大宮町（静岡県富士宮市）にあらためて店を出しました。当初は鈴木正吉名義で酒造業を営みましたが、安政3（1856）年から「中屋」という店名



歴史は未来の羅針盤

近江日野商人館（大窪）、近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」（西大路）の開館時間は、午前9時から午後4時まで、休館日は毎週月・火曜日、祝日の翌日、年末年始になります。入館料は、大人個人三〇〇円、大人団体（三十名から）二五〇円、小・中学生一二〇円です。ぜひご来館下さい。

前を用いるようになり、のちに中屋本店とも呼ばれます。この店では銘酒「高砂」をはじめとする酒のほか、焼酎・醤油・味噌・酢の製造・販売を行っていました。明治8（1875）年には駿河の国の今泉村（静岡県富士市）にも店を出します。この店は日野屋のちに吉原支店と呼ばれ、酒・焼酎・醤油・味噌・酢の製造・販売を行っていました。明治26（1893）年、大宮町の阿幸地欠畑（静岡県富士宮市）に欠畑支店を出店しました。この店はのちに中屋支店と呼ばれ、酒造のほかサイダー・ラムネを製造する飲料部がありました。43年には富士郡岩松村岩本（静岡県富士市）に酒造店を出しました（山屋）。この店は大正初年に同郡加島村本市場に移転し、日野屋富士支店となりました。

そのほかに、浜松市に酒類・米間屋などを営む山中商店、小笠郡横須賀町（静岡県掛川市）に大竹屋山中酒店を開業しました。

## 山中正吉家と富士山

初代山中正吉が店を出した大宮町は、富士山の南西のふもとに当たる場所で、富士山信仰の中心であった浅間大社の門前町でもありました。そのため、山中正吉家は富士山や浅間大社ともかかわりを持つようになっています。明治初期、廃仏毀釈が行われた時山中正吉家は、富士山の山頂に祀られていた仏像8体をもらい受けて、酒蔵の中二階に安置しました。現在も富士山下山仏として祀られ、その蔵は薬師蔵と呼ばれています。また、山中正吉家は浅間大社を崇敬していたので、近江日野商人ふるさと館のくどには、浅間大社の札が貼られています。出店が富士山に近かったからか、大正時代には滋賀県から富士登山をする人々に中屋本店の店員が同



▲中屋の店員が付き添った富士登山の記念写真

行していたようで、山中正吉家は、富士登山の記念写真がいくつか残されています。左の写真は大正7（1918）年に県内の人が富士登山をした時の記念写真です。法被の襟には「中屋本店」と染め抜かれていて、その服装から大宮町の中屋本店の店員であることがわかります。現在ふるさと館では、山中正吉家の出店に関する絵図や史料、古写真の展示を行っています。ぜひお越しください。なお、日野ひなまつり紀行開催期間中（2月14日～3月13日）は、近江日野商人館・近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」とも毎日開館しています。